

寒冷地形談話会通信

1988年度 第1号
1988年5月11日 発行

1. 3月例会の報告

3月例会は、30～31日に大貫靖浩（筑波大・院），角田清美（小平南高）両氏の案内により，多摩川中流域の段丘発達史について巡検を行った．見所は，

- 1) 宮ノ平対岸町屋川右岸の立川面の構成物（古そうな礫層，泥炭層，Go-Pとされる軽石層；立川礫層〔厚さ約3m〕の下位に存在する堆積物）．
- 2) 二俣尾中学校裏の埋積谷
- 3) 軍畑付近の埋積谷堆積物中に挟在するTP
- 4) 川井付近の支谷斜面に見られるAT
- 5) 海沢合流付近の高位段丘（青柳面とのこと）

などである．特に，3)のTPは青柳面（or拝島面）下13mの位置に見い出されたもので，それ以下の礫層が武蔵野礫層に対比されることになり，いままでほとんど不明であった多摩川山間部の武蔵野期の河川環境復元の重要な資料になると思われる．段丘面の対比については，大貫氏の見解によると，中流部ではおもに拝島面相当のものが多く分布し，支流の小流域にみられる段丘化した緩斜面（沖積錐）も拝島面に連続する面とのことであったが，これらの斜面の形成は拝島面形成以降も続いたのではないかという意見も述べられた．

両日とも曇り空に時折小雨の混じる暗い天気であったが，宿泊した数馬の民宿の朝は，思わぬ春のなごり雪につつまれた．その他，小河内ダム，小澤酒造（澤の井）など人文的な見所もあり，盛会のうちに巡検を終えた．今回は最近の例会にしては珍しく，参加者の大半が若い学部学生で，明日の寒冷地形もまだまだ大丈夫だと感じられた．（文責：清水）

－参加者－

青柳章一，秋山好則，石丸聡，植村善博，梅津譲，大岳俊秀，大貫靖浩，小沢昭男，久保純子，岩船昌起，鈴木山告，角田清美，伏島祐一郎，門馬将洋，清水長正（以上15名）

2. 5月例会のお知らせ

5月例会は阿武隈山地周辺の巡検といたします。

【案内予定者】 西城 潔

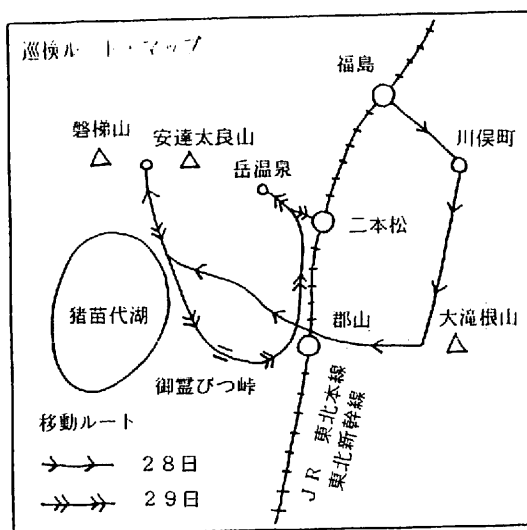
【ルート】

5月28日(土) AM9:00 福島駅集合

福島駅→川俣駅周辺(岩塊流・緩斜面)→大滝根山仙台平
→東北大学開発地理学研究所

5月29日(日)

同 宿泊所→御霊びつ峠(階状土)→岳温泉(インポリューション)
→二本松(解散)



☆ 全行程自動車で移動しますので、マイカーで来られる方は御一報下さい。

☆ 宿泊所 東北大学開発地理研究所 福島県猪苗代町芹沢4040-5

☎ 02426-2-5084

☆ あると便利な地形図・地勢図 図幅名

20万分の1 福島

5万分の1 二本松・猪苗代・川俣・保原・相馬中村

初日 弁当持参

参加費 約 6,000円 (ガソリン代、宿代、舌代込み)

☆ 申込〆切 5月22日までに電話かハガキで世話人 長谷川まで

☎ 03-296-4333 呼 (明治大学大学院)

☎ 0476-22-4030 (自宅) 〒286 千葉県成田市本町593-4

長谷川 裕彦

3. 6月例会のお知らせ

—— 寒冷地形談話会 6月例会 ——

日 時：6月18日（土） PM 2:00 ～ 5:00

場 所：明治大学大学院棟 3階 310号室（JR 御茶ノ水駅下車 徒歩3分）

伏島祐一郎（明治大・院）：北アルプス蝶ヶ岳の多重山稜

安仁屋政武（筑波大）：セルロンダーネ山地バルヒェン地域の氷河地形

4. サマースクールのお知らせ

今年度は8月8日～11日に、北アルプス薬師岳周辺で行う予定です。詳細は、次号でお知らせいたします。

5. 事務局変更のお知らせ（1988年度事務局の体制について）

4月より事務局は

〒101 千代田区神田駿河台1-3

明治大学大学院棟610 地理学院生共同研究室 澤口 晋一 気付
となりました。

担当は、責任者 澤口 晋一、番頭 長谷川裕彦です。よろしくお願いいたします。

6. 会費納入のお願い

今年度の会費1500円の納入を、同封の振り込み用紙にてよろしくお願いいたします。住所・所属等の変更がおありの方は振り込み用紙にその旨明記して下さい（名簿作成の関係でなるべく6月中旬ころまでにお願いいたします）。また、御自身の現在の研究テーマあるいは寒冷地形談話会に少しでも関係しそうな情報などございましたら併せてお知らせ頂ければ幸いです。

口座番号：東京 0-171342 寒冷地形談話会